

2013年8月4日開催

第6回ベーシックセミナーでのアンケートへの回答

昨年夏の第6回ベーシックセミナーは、おかげさまで参加人数も多く、総じて評判がよく、アンケート調査でも好評を得ることが出来、これも皆さまの積極的なご参加とご協力のおかげと感謝しております。また、初の試みである交流懇親会も活発な質問や議論が見受けられ、意義のあるものであったと考えております。ただし、厳しいご意見も当然承っており、身の引き締まる思いであります。

まだまだ手探りの臨床免疫検討会ですが、どうしても初回は総論的な意見になりがちで、これも開催前からある程度予想がついておりましたが、主題が定まらず散逸的な議論になってしまい、問題提議のみで終わってしまった内容もあり、この点我々の力不足であると感じています。取り上げたいテーマが多く、なかなか続けて同じテーマというのが難しいのですが、CICだけではなく、講演や症例検討などでも取り上げていきたいと思っております。

また、今まで皮膚科領域での講演や議論が多かった中、消化器症状についての症例発表も取り上げさせて頂き、川野先生と周藤先生から有用なお話をお聴きできました。その後のアンケートでの反響も高く、またご質問でも活発なやり取りが出来ました。前回、このテーマを取り上げさせて頂いたのは、大変重要なテーマであり関心も高いというだけでなく、今回のご講演やCICに向けての試金石でもありました。今回ご講演頂く渡邊先生、福田先生、鈴木先生は皆様免疫学の大家であり、それぞれ臨床免疫や消化管免疫を専門とされる方々で、ご講義頂く機会もなかなか我々にはチャンスが少ないなか、CICでもコメンテーターとして、また懇親会にもご参加頂けるという絶好の機会を頂きました。獣医療の現状と限界はあるかと思いますが、ご教授頂くだけでなく果敢にチャレンジさせて頂き、またいつも以上にご質問や議論など活発に行えたらと思います。

毎回のシンポジウムやセミナーの開催は、事前登録者数と滞りなく会を終了することでほっとし、アンケートの答えに一喜一憂し、その対応に四苦八苦し、まだまだ力不足の感はあり、行き届かない点多々あったことと思います。この場を借りてお詫び申し上げますと共に、今後より一層皆様のお役にたてる学会となるよう努力していく所存ですが、これには皆様のご協力も必須であるため、今後ともよろしく願いいたします。

前回のアンケートの中には、いつも通りご質問やご意見も多く含まれており、今回もまたこれらの内容につきまして、細かいご要望も含め、学会HPおよび運営委員会よりお答えをさせて頂こうと思います。もうしばらくお付き合いください。

尚、アンケートにはご質問も含まれており、短時間のご説明や文章での解説が不可能なものも多く、また一方的に解説させて頂くのではなく、ディスカッションをしたいという学会の主旨もございますので、一部は学会HPでお答えいたしますが、講義や講演、CICの内容で補完して頂くことや、できましたら学会参加者皆で共有したい内容もございますので、講演講義後のご質問で直接お願いしたいと思います。お時間が足りない場合は、コーヒープレイクの時間や交流懇親会をご利用いただきたいと思います。

<講演内容について>

講演内容についての要望および質問が多数ございますが、こちらは時間の都合上 HP にて詳しく回答させていただきます。

○シラバス等をもう少し判りやすく作って欲しい、講演の際にあっちこっちにとんで判りにくい。

資料作成上の不備や印刷の不備などがあれば今後改善させていただきますが、掲載可能なスライドは全てシラバスへ反映させておりますし、HP でのダウンロードなど、出来るだけの努力をしております。今後もより良いシラバスや資料の作成を行ってまいりますので、よろしくお願い致します。

○飼い主さんへの説明の仕方の講演をしてほしい。

本学会でも力を入れて行すべき分野と自覚しており、そのためのCICでもあります。今後、インフォームドコンセントや医療面接という形で、講演や講義、症例検討など考えております。

○いろいろな皮膚や消化器疾患だけでなく、他の診療科とリンクした内容の構成をお願いしたい。

日常の診療では総合診療として行っているはずですが、学会などではどうしても単味で考えやすい傾向があります。この点に留意して、今後の企画として考えていきたいと思っております。

○好酸球について、アレルギー性疾患が疑われる際のひとつの根拠にされやすいが、どのように考えればよいか。

○人医領域に比べて、犬・猫の皮フアレルギー症例が多いような気がするが、そのメカニズムと外耳炎との関連性を知りたい。

これらのご質問は、講義の内容に含まれているものですが、非常に興味のあるご質問であり、簡単にお答えできるものではありませんので、補講で取り上げることが可能であればそちらで、あるいは質問時間をご利用いただくか、講師に直接ご質問ください。

○アレルギー以外の皮フのセミナーや手作り食についての講演をしてほしい。

本学会の活動内容とは異なる分野ですので、免疫やアレルギーと関連する皮膚科や食物療法という形での情報提供は出来るだけ行っていきたいと思っております。

○症例や写真の多い講義をしてほしい。

以前にもお話しした通り、臨床の現場に即した情報は重要ですが、本学会ではまず第一に疾患を系統立てて考え、病態を理解することが今の獣医学には不足していると考えており、極力その部分の研鑽をしていきたいと考えています。第二に、個々の情報を淘汰する能力と利用する思考力が大切と考えており、この部分を伸ばすことを考えております。さらに、たとえ基礎獣医学や医学界の基礎研究や免疫にかかわる情報のように、一見臨床への関与が少ないように思える内容でも、その情報をどのように臨床に役立てるかが獣医師の資質と考え、この部分を研鑽していきたいと考えております。これらを踏まえたうえで、遠回りと思えるような方法でも根気

よく勉強を続けて頂き、本学会でも例示として症例などをより多くご紹介できる内容で考えていきたいと思えます。

○消化器症状と食物アレルギーを大学ではどう診察しているのか。

○膵炎や胆管肝炎と診断している症例に食物アレルギーの関与を疑うことがあるか。

○アレルギーと腸内細菌叢との関係をもっとくわしく知りたい。

○腸内細菌叢をどのように整えることでアレルギー治療に実際つながるのか。どの程度コントロールが可能なのか。

次回の第8回シンポジウムでの講演やCICで取り上げられる内容ですので、ぜひご質問ください。

<技能講習について>

○前回の技能講習の講義、情報の整理整頓でみえてくる食物アレルギー攻略術に対して病名や病理組織名、症状名が統一され切れておらず、私的な考察が多かった。

講演内容やシラバスの通り、内容は本学会にて考察させて頂いておりますが、引用させて頂いている理論には参考文献が必ず存在します。また、講義内容の決定やシバス作成にあたっては、講師が責任を持って行っておりますが、長谷川、増田を始めとした学会役員及び技能講習制度委員会、その他諸先生方との議論や精査にてすべて検証しております。また、今回の講義の内容は、十分統一され、ご理解頂けるものと考えておりますが、理解を促せない部分があったものと考え、この点は今後の講義にて改善していきたいと思っております。

○集中的にテーマをしぼって議論されている良い部分と、言葉の統一や講義の順序に分かりにくさを感じる。さらに討議され、統一した発表を期待している。

その他の発表には演者の考察があり、技能講習とはそもそも一線を画するものです。前回の言葉の定義の統一は、医学でもまだ出来ていない事例であり、獣医療でも初めての試みでした。この内容は、今後も熟考していく必要があるかと思いますが、現時点では最良のものと考え、混乱を防ぐためにも浸透させていきたいと考えております。ただし、臨床診断名や原因診断名などの考え方の概念やCADやFDなどの言葉の定義の統一の重要性など、皆様すでに周知されていることと考えておりましたが、本来であれば以前より講演や講義などで取り上げておき、啓蒙に努力しておくべきでした。このような問題は、今後も起こりうると思っておりますので、細心の注意を払って講演講義の内容を考えていきたいと思っております。

○定義の統一について、他学会との見解の違いがあり、臨床面から考えた統一した診断基準が欲しい。各々の学会の意見の相違はさらに混乱を招くのではないか。

これは、かなり大きな問題できわどいご質問です。統一しようにも未だ整った基準がないという問題が根幹にあり、これから統一されていく分野であると思っております。また、元々どの分野でも学会間でこのような議論や討論がほとんど行われていないという現実があります。言ってみれば、どちらの言い分が正しいかという結果となります。これらの評価は、本来皆様が下すものであって、淘汰されていくものと考えます。が、ご要望が多いようであれば、学会間での議論や公開討論会などの方法はあると思っております。ただし、このような活動は、本来本学会の姿勢とは

反するものであり、その趣意を曲げて活動することよりも、自らの研鑽にその力は使っていきたいと思っております。もし第三者組織でそのような動きがあるのであれば、本学会はその場に臨むことは辞しませんし、そのような機会を無駄にはしません。

○講義の進みが速く、講義時間をもっと長くしてほしい。

このようなご要望を何度も頂いておりますが、各回のスケジュールと可能な学会開催回数では難しく、多くの情報をお伝えするためにはどうしても今のような形になってしまいます。各自の研鑽と努力にて補って頂くようどうかご容赦ください。

<CICについて>

○処方食の指導の話が最後にありましたが、net 側の問題について、具体的にどこまで、どのように時間をさいて説明をしているか。

飼い主さんが理解できるまでしっかりと時間をかけます。また、この時は、ネット購入の問題点だけではなく、食物療法全般についての説明（なぜ必要か、何のために、どのような成分で、どのくらいの期間、どのくらいの間隔でチェックなど）を以前行っても再度復習すると良いと思います。これが不足するために、飼い主さんの理解を得られず、この後の指導の必要性もご存じない飼い主さんも実際には多いです。その上で、

- 1、処方箋が必要な治療の一環であること。処方食を使用することだけが、食物療法ではない。
- 2、正確な診断や食事指導を行わずに、安易な食物療法は逆に誤解などを生じ悪い影響を与える。
- 3、食物療法は、体調や病状に合わせて効果の判断や内容の変更を行う必要があるため、その後の診察や指導が重要である。
- 4、診察や指導の伴わないことで製品の値下げをするだけでなく、保存状態に不安の残る大量購入やダンピングなどもありえるため、信頼できないことが多い（安いものは安いだけの理由がある）。
- 5、これらが続けることで、フードメーカーの信頼もなくなり、販売も低調になり、よい商品が生まれず、結果的にこの業界が低迷する。
- 6、質の悪い食物療法がおこなわれることで、食物療法の効果も信頼がなくなり、獣医師の資質や倫理も疑われることとなる。
- 7、実際に「不適切な療法食使用による健康被害報告」の調査がなされ、これには獣医師の診療による不適切な処方も含まれるが、大半は飼い主さん自身での療法食の購入が原因となっています。

<サマースクールについて>

○サマースクールについて 参加対象をもう少し広げていただきたい。

若手獣医師を対象としておりますが、年齢ではなく経験年数でも考えられますし、ご希望であれば柔軟に対処します。

<その他>

○会場が寒すぎる。

会場全体の温度調整が難しいこととそれぞれの方の体感温度が異なるため、ちょうど良いという意見もごさいます。これは毎回お願いしておりますが、服装などで各自ご調整頂ければと思います。

○会場の立地・アクセスについて

一部変更のご要望がございますが、大半の方から良いという意見を頂いております。利用に対して柔軟なご対応を頂け、会場費なども他会場に比べ良い条件のため、このままこの会場にて開催を続けていきたいと思ひます。ただし、本年のベーシックセミナーは、会場の予定が空いておらず秋葉原での開催となります。ご迷惑をおかけ致しますが、何卒ご了承ください。